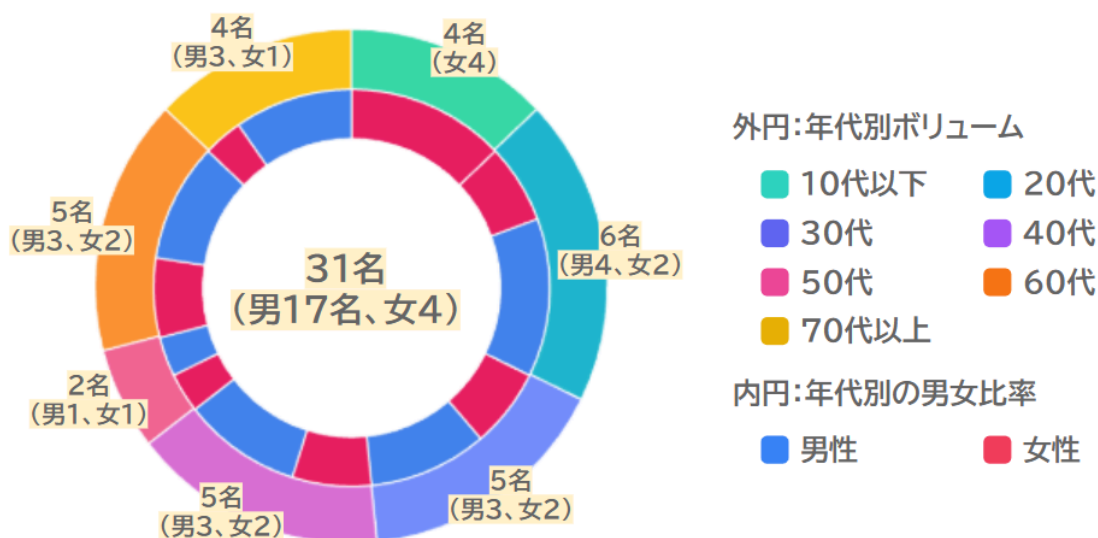


県民と知事の“ホンネ”トーク（秋田市開催）開催概要

1 開催概要

- 日 時 令和8年6月21日（日）10:00～12:00
- 場 所 LiSH AKITA（秋田市）
- 参加者 秋田会場 31名（男17名、女14名） ※申込51名
東京会場 3名

区分	人数（男女人数）
10代以下	4名（女4名）
20代	6名（男4名、女2名）
30代	5名（男3名、女2名）
40代	5名（男3名、女2名）
50代	2名（男1名、女1名）
60代	5名（男3名、女2名）
70代以上	4名（男3名、女1名）



- 実施内容
 - (1) 開会挨拶（知事）
 - (2) 第1部 テーマ：秋田の『ここ』がもったいない！
 - (3) 第2部 テーマ：『こんな』秋田になったらいい！
 - (4) 第3部 テーマ：第1・2部のテーマ及び開催地域の活性化に関すること
 - (5) 感想発表（知事）
- 実施方法
 - (1) 第1・2部：会場抽選で選ばれた5名程度と各テーマについて知事と意見交換
 - (2) 第3部：会場参加者全員を対象に意見交換（挙手制）

2 開会挨拶（知事）

本日は悪天候の中、年齢や性別など幅広い層の皆様にお集まりいただき感謝する。県民との意見交換会は25年前から200回以上実施してきた。これまでは、県から県民に参加をお願いする形式であったが、今回は広く多様な意見を伺うため、参加者を公募した。そのため、様々な厳しいご意見が出るのではないかと緊張感を持っているが、本日はそういった県民の率直な思いを伺いたい。限られた時間ではあるが、本日はどうぞよろしく願います。

3 第1部 テーマ：秋田の『ここ』がもったいない！

（1）東京会場とのオンライン中継

首都圏と常時オンラインで接続されているLiSH AKITAの環境を生かし、第1部の中で、首都圏在住者から話題を提供してもらい、会場意見交換の活性化を図る。

○ 主な発言

● 20代男性①、秋田市出身

秋田を離れて気づいた良さは、自然が豊かで食べ物が美味しいことだ。しかし、東京に出て全国の様々な地域と比較すると、自然豊かな地域は他にも多く、秋田と大差がないように感じてしまう点ももったいない。秋田独自の強みをどのように差別化して見せていくかという工夫や戦略ができれば、秋田の良さがさらに伝わるのではないかと考えている。

● 20代女性、秋田市出身

秋田を離れて気づいた魅力は、水が綺麗で美味しいことだ。一方で課題に感じるのは、交通アクセスの不便さである。公共交通機関が少ない地方特有の課題ではあるが、観光客や帰省する若者のためにも、車なしでもスムーズに移動しやすい環境の整備が必要だと感じる。

● 20代男性②、秋田市出身

上京した県出身の学生たちを束ねる団体を運営しているが、皆非常に秋田愛が強い。もったいないと感じるのは、県と若者のつながりの弱さである。秋田への愛着があっても県と関わる機会が少ないため、秋田のために何かしたいという熱量が下がってしまっている。今日のような本音で語り合えるイベントも含め、継続的に県と若者が関わり、接点を持ち続けられるイベントを開催してほしい。

● 知事

東京で活躍する若い皆さんから意見をいただき感謝する。自然の豊かさだけでは他地域との差別化が困難であるというのは全くその通りだ。私が今まさに力を入れているのは、県外で活躍しながらも本県への愛着を持つ若者が、秋田に帰ってきたいと思えるような、多様な選択肢のある秋田を創ることである。

県外に出てから初めて気づく魅力がある。私たちが普段口にしている水やお酒などの品質は非常に高いが、一方で、秋田の知名度は私たちが思っているほど高くはない。例えば、比内地鶏を知っていても、それが秋田のものだと認識していない人は多い。素晴らしい資源を持ちながらも知られていない。PR力が足りない。という指摘はまさにそのとおりであると考えている。

（2）秋田会場での意見交換

会場抽選で選ばれた5名と意見交換を実施。

○ 70代以上男性

秋田には豊かな自然や温泉など他県に負けない魅力があるが、東北や北海道と比べても観光客が少なく、県内有数の温泉であっても、県外での知名度が低いのがもったいな

い。宣伝には費用がかかるが、何もしなければ人は来ない。人口減少が急速に進む今こそ、県外に向けた戦略的なPR活動を展開し、観光客を呼び込むべきである。

○ 知事

現在のPR手法は、SNSやAIなど日進月歩で多様化しており、単にお金をかければ良いわけではない。県や地元の中小企業が自力で対応するのは難しいため、専門家の最新の知見を取り入れ、費用対効果が高く確実に結果が出るような、戦略的なデジタルマーケティングへの転換を図っている。観光分野のPRは最もマーケティングの効果が出やすいため、リソース配分においても非常に重視している。

○ 60代男性

秋田県は再生可能エネルギー自給率が全国トップクラスであり、食料自給率も200%を超えている。さらに、県民一人当たりの医療従事者数も全国平均程度に確保されている。教育面でも全国学力テストで常に上位であり、近年は子どもの幸福感も1位となった。エネルギー、食料、医療、教育という重要な4項目が高い水準にあることは、秋田県独自の大きな強みである。このポテンシャルをもっと大都市圏にアピールし、人を呼び込むべきである。

○ 知事

エネルギー、食料、医療、教育の4項目が高い水準にあることは、安全保障が危ぶまれる現在の日本において秋田独自の大きな強みである。今後はこのポテンシャルを魅力として全国に発信しつつ、地元が潤い、県民の利益につながる仕組みを構築していくことが重要となる。

○ 60代女性

県南で理容師をしている。秋田は平和であり、車での移動利便性が高く、自然豊かで子育て環境の面で素晴らしい。

働き手の給与水準向上を求める切実な声も多く聞いている。また、地方の娯楽の充実も重要であり、過去に大曲のイオンへ映画館の併設を直訴し実現させた経験がある。高齢者でも車で気軽に行ける娯楽施設は欠かせず、今後も豊かな自然と生活における利便性、そして娯楽が共存する魅力的な街の機能を維持してほしい。

○ 知事

都会の行列や満員電車と比べ、車でドア・ツー・ドアの移動ができる地方都市ならではの暮らしやすさがあり、子育て世代にとって非常に恵まれた環境である。子育て世代に秋田の住みやすさを実感してもらえよう、この強みをしっかりとアピールしていく必要があると考えている。

○ 10代以下女性

「子どもの幸福感ランキング全国1位」という結果は嬉しい反面、これほど幸福感が高いにもかかわらず、成長すると多くの若者が県外へ流出してしまう現状が非常にもったいない。知事はこの現状をどう受け止めているのか。また、不登校が増加する中で「学びの多様化」が求められている。今後の秋田に必要な多様な学びの場や、教育ビジョンについて教えてほしい。

○ 知事

子どもの幸福感ランキングが全国1位という結果は、平和で子どもの揉めごとが少ない素晴らしい環境の表れであると評価している。しかし同時に、大人に従順な傾向が強いという側面もあり、成長して自由な選択を求める青年期になった際、秋田の環境に物足りなさを感じて県外に出ていく要因になっているとも感じている。この1位の結果を手放しで喜び現状に満足することなく、今後の教育のあり方を考えていく。

○ 30代男性

県外からリモートワーク移住し、食や人柄など秋田の住みやすさを実感している。一方で、人口減少の中でこの活力を維持できる経済構造になっているか課題を感じる。限られたリソースをどこへ「選択と集中」で投入するかが重要だ。若者が県内定着の動機

となる成長産業の育成や賃金向上のため、昨年度から立ち上げたマーケティング戦略課などを活用し、具体的にどの分野に力を入れていくのか聞きたい。

○ 知事

限られたリソースの投入先について、マーケティング思考を取り入れて最も目に見える効果が出やすいのは観光分野であり、観光資源を磨き上げることは重点ポイントの一つである。しかし県政はそういったキラキラした部分だけではなく、物価高騰への対応や熊対策など、県民の安心・安全を守るための、生活基盤の維持にもしっかりと対応しなければならない。その上で県の重点項目を挙げるとすれば、人口減少対策が最優先である。したがって、まずは人口減少対策を最優先とし、次いで経済的なリターンが大きい「観光」に注力するという「選択と集中」を進めていく。

○ 追加質問 70代以上男性

県内の中学校を卒業した有望なスポーツ選手が、他県の強豪校に進学してしまう現状は非常にもったいない。彼らが地元の高校に残って活躍してくれれば、秋田はもっと盛り上がるはずである。競技ごとに事情は異なるだろうが、スポーツで頑張りたい子どもたちが、県内でしっかりと進路を選べるような環境整備や入試制度の抜本的な改善が必要である。

○ 知事

重要なのは「多様な選択肢」があるかどうかである。4年前の高校入試制度の変更を境に、県外へのスポーツ人材の流出が急増したことは客観的な事実だ。制度変更により、スポーツに秀でた生徒も3月まで進路が決まらず不安定な状況が続くようになり、他県の私学を選びたくなるのは当然の心理である。

本当にトップを目指して県外へ行くという選択の自由を制約するつもりは一切ない。しかし、県内で競技の継続を希望する子どもたちに対しては、しっかりと頑張れる環境を作り、選びやすい選択肢を用意すべきだと考えており、この現状を問題視している。

決して大人の都合で競技力向上のみを目的とするわけではなく、魅力的な教育環境を整備し選ばれる秋田県になる必要があるということだ。まずはできることから改善していくため、現在、制度検討委員会で議論を進めているところである。

○ 第1部の感想（知事）

素晴らしい気づきを与えていただき感謝する。それぞれの経歴や住む環境は異なるが、皆さんが私の考えている方向性と同じ思いを持ってくださっており、背中を押していただいたように感じている。現在、様々な施策を仕掛けて成果が出るよう取り組んでおり、移住者や関係人口の増加に向けて、この4月から本格的に動き出したところである。これが最終的に観光客や移住者の増加という目に見える結果に結びつくかどうかはこれからの勝負であるため、引き続き様々な形でお力添えをいただきたい。

(3) 東京会場とのオンライン中継（秋田会場の意見交換を見た感想）

○ 20代男性①、秋田市出身

秋田会場の多様な熱い意見を聞き、大変有意義な時間となった。東京と秋田をつなぐハブとしての活動を目指す中で、東京でも今回のように本音で語り合える場を企画すべきだと感じた。最初は小規模であっても、若者が県と継続的に関わり、接点を持つことは非常に貴重な体験になる。引き続きこうした取組に参加し、共に秋田を盛り上げていきたい。

○ 20代女性、秋田市出身

県民の意見を吸い上げ、県を構造的に良くしていく取組に非常にワクワクしている。子育てやUターンの観点から見ると、少子化の中でUターンを促進することも重要だが、何より若い世代が地元で安心して子どもを育てられる精神的・経済的なゆとりを感じられる産業の育成や、強固な収益基盤の構築が不可欠である。そうした経済的な安心感が、最終的な定住につながると考えている。

- 20代男性②、秋田市出身

知事のオープンな姿勢は県民にしっかりと伝わっている。地方特有のしぐらみがある中で、一部の選ばれた人だけでなく、県民が知事と直接本音で議論できる環境があることは素晴らしい。こうした取組を今後もぜひ継続していただきたい。また、東京をはじめとする県外からの客観的な視点も引き続き届けていきたい。

4 第2部 テーマ『こんな』秋田になったらいい！

(1) 秋田会場での意見交換

会場抽選で選ばれた5名と意見交換を実施。

- 20代女性

障害者の就労と自立をサポートする仕事をしているが、県内では障害者雇用が進んでいない企業も多い。企業が障害者の雇用を推進し、障害者が自信を持って堂々と働ける街になってほしい。また、外国人が街を歩くとジロジロ見られるという課題もある。言葉だけのダイバーシティではなく、障害のある人も外国人も皆が自然に混ざり合い、互いを理解して交流できる寛容で優しい秋田になることを願っている。

- 知事

県内の障害者雇用はあまり進んでいないという認識である。仕事の仕方を工夫してしっかりとした収入を得られる就労モデルの実践例もあるため、県としてそうした取組を後押ししていく。

また、外国人材の活用に関しては、急激な増加による将来的な影響をシビアに見極める必要がある一方で、互いに理解を深め共生していくための地域の「寛容性」が不可欠である。

この「寛容性」の低さは、若者の県外流出にも直結しているというデータもある。いきなり排斥するのではなく、県総合計画の「寛容・挑戦・安心」の理念に基づき、多様な人々がそれぞれの幸せを秋田で実現できる社会を目指していく。

- 20代男性①

県外での就職を経て今月秋田へ移住してきた。県民全員が地域の魅力を自分の言葉で語り、秋田に誇りを持つようになしてほしい。豊かな自然や食など素晴らしい環境があるのに、様々な指標で低い評価を受けると、誇りを持ちきれない部分がある。自分たちで何が良いかを真剣に考え、やりたいことを実現できる場が増えれば自己実現が果たせる。その積み重ねが、地域の良さを自然と発信できる誇りと活力に満ちた秋田を創り出すと確信している。

- 知事

秋田の人は穏やかな反面、「どうせ秋田なんてダメだ」と自己否定になってしまいがちである。県民が自己否定せず、地域の良さを明るく誇りを持って発信できる寛容な雰囲気づくりが重要である。私自身もメディア等を通じて明るくポジティブな発信に努めていく。

- 20代男性②

福祉施設で介護の仕事に携わっているが、現場の大きな課題はデジタル化の遅れである。他県では介護DXが進んでいるが、県内の多くの施設は昔ながらの手法に頼り、職員の負担が大きくなっている。今後は最新のテクノロジーや社会資源を積極的に取り入れ、働く職員の負担を軽減するとともに、サービスを受ける高齢者にも満足してもらえるような体制を実現してほしい。

- 知事

介護現場のDX化を進めるためには、初期投資や導入に係る手間等の様々なハードルを乗り越えて意思決定を行う経営者の意識が重要である。これまでは、単に補助金を用意して周知するだけの手法で、利用が伸びなかった反省から、ここにもマーケティング

の思考を取り入れていく。どうすれば経営層に届き、導入してもいいと思ってもらえるかを深く分析し、実効性のある手法をさらに検討していく。

○ 40代男性

半導体関連企業の誘致が必要であると考えている。巨大な半導体工場でなくとも、製造装置メーカーや関連企業であれば可能性があるのではないかと。秋田には豊富な水資源や安価な土地があり、半導体産業に必要なインフラが揃っている。水道インフラの整備と併せて誘致を進めれば、多様な雇用の創出と税収の大幅なアップにつながる。理系人材が県内で活躍できる高所得な成長産業の基盤を作っていただきたい。

○ 知事

企業誘致については、これまでの製造業一辺倒から脱却し、若者や女性が働きたいと思える業種へと幅を広げてきた。半導体関連企業については、グローバル企業が環境に配慮する中で、秋田の「脱炭素電源（再生可能エネルギー）が大量に生まれること」が強力なセールスポイントになっている。加えて、県内の高等教育機関に集積している理系人材を強力な武器としてトップセールスを行い、東京で活躍している若者が「これなら帰ろう」と思えるような魅力的な企業の誘致をさらに進めていく。

○ 70代以上女性

ラグビーが好きで国内外の様々なスタジアムに足を運んできた。新スタジアム建設について費用などのマイナス面ばかり報道されるのが残念だ。新スタジアムに期待されるのは、単に試合による集客だけでなく、日常的に人が集まり交流や消費の場につながることだ。収容人数は5,000人規模では体育館と変わらないため、1万人にするべきである。費用が単純に2倍になるわけではなく、将来の集客をしっかりと考えることが重要である。

○ 知事

スタジアム建設は決して一部の人のためのものではない。スポーツの持つ力は経済効果だけではなくシビックプライドなどの公的な価値が相当ある。市街地に整備することで、サッカーだけではなく野球や音楽など、試合がない日でも日常的に人が集まり賑わいを生む機能が期待できる。ただし、県としての財政的な限界はあるため、「ここまでなら公的に支援できる」という明確な線引きをした上で、推進に向けて取り組んでいく。

○ 追加発言 70代以上女性

新スタジアム建設の民間資金5億円の目標に対し、例えば、「2,000円×25万人プロジェクト」のように広く少額を集める仕組みを作れば、「みんなのスタジアム」としての気運がさらに高まる。参加者へのサンキューカードの配布や各市町村への窓口設置など、地道に資金を集める努力が必要である。

○ 知事

資金集めや気運醸成については、まずクラブ側が先頭に立って取り組むべきことだと考えているが、県としても側面からしっかりとサポートしていく。

○ 第2部の感想（知事）

幅広く県民の皆様のお話を直接聞くことの重要性を改めて感じている。休日に時間を割いて集まっていたいただいた皆様の熱意を肌で感じる事ができた。個別のテーマについては十分にお話ししたが、私自身もまだまだ県政のために頑張らなければならないと、強く感じた。

5 第3部

第1・2部のテーマ及び秋田地域振興局管内の活性化について、参加者全員を対象に意見交換を実施。（12名と意見交換）

○ 20代女性

大学卒業後上京し、現在はタレント活動等を通じ秋田ブランドの世界発信や伝統工芸品の担い手不足解消を目指している。若者の定着には、秋田で働く「やりがい」や「息づかい」を感じられる環境が必要だ。若者のアクティブな声を行政が活用し、県と若者が共に地域課題に取り組む共創プロジェクトや、挑戦できる場を積極的に提供してほしい。そうした活動が新たな雇用創出や若者が秋田の価値を再認識するきっかけになるはずである。

○ 知事

若者が秋田で暮らしやすい環境を作るには、若い世代の直接的な声やアイデアが不可欠だ。行政の従来の発信方法やSNSの活用だけでは、もはや若者に情報が届かない時代になっていると痛感している。だからこそ、自ら一步を踏み出し、行動を起こしてくれる若い人材を増やしたい。私たちが気づかない視点から、斬新なアイデアやアドバイスをぜひ提案してほしい。

○ 70代以上男性①

毎月秋田駅周辺でゴミ拾い活動を続けている。陸の玄関口である駅前なのにタバコのポイ捨てが多く、街路樹が枯れて雑草が伸び放題で情けない状態だ。また、横断歩道で一時停止する車が少なく、観光客に悪い土産話を持ち帰られてしまう。景観と交通マナーの悪さは観光にも直結するため、県都としての誇りを持ち、駅周辺の景観改善とドライバーの交通マナー向上に本腰を入れて対応してほしい。

○ 知事

毎月のゴミ拾い活動に心より感謝する。秋田駅周辺の美観や交通マナーは、訪れた人の第一印象を決める重要な要素だ。美観の維持については、県の管轄だけでなく市町村や民間との連携が不可欠であるため、関係機関としっかり対話しながら改善に努める。また、横断歩道での一時停止率の低さは、観光のマイナスイメージに直結する課題と認識している。歩行者の多い駅周辺などを中心に、警察と強力で連携して交通マナー向上に向けた指導と啓発を徹底し、誰もが安全で気持ちよく過ごせる秋田の玄関口を創っていききたい。

○ 40代男性①

昨年県外から移住し、小学校教員をしている。秋田の教育は学力テスト上位だが、現場で見ていると過去問演習や大量の宿題など、点数を取るための詰め込み教育に偏り、子どもたちが窮屈そうだ。幸福感アンケートも大人の顔色をうかがって答えている側面があるのではないかと。勉強だけではなくスポーツや自然観察など、多様な個性をのびのびと伸ばせる自由な教育へ転換し、子どもたちの真の良さを引き出す環境を作してほしい。

○ 知事

秋田の子どもは真面目で学力も高いが、型はめが強すぎるのではないかと、私自身も経験上強く感じている。学力テスト上位という秋田県の教育のプライドや、過去の成功体験を否定するつもりはないが、正解のないこれからの時代に合わせて、画一的な教育から多様性を重んじる教育へとアップデートしていく必要がある。子どもたちが自らの頭で考え、このルールのままでもいいのかと疑問を持てるような人材を育てるため、入試制度の見直しを含め教育委員会と深い議論を重ねている。

○ 70代以上男性②

秋田市の水道水からEUの基準を超える農薬が検出されたとの報道に強い懸念があ

る。行政は国の基準値内で問題ないとするが、県が若い世代を秋田に呼び戻そうとしている中で、戻ってきた若者や子どもたちが飲む水として不安だ。農家が農薬を使わざるを得ない根本原因は国の法律によるものである。県民の食と水の安全を守るため、県から国に対し、農薬使用を減らせるよう検査制度の抜本的な見直しを強く働きかけてほしい。

○ 知事

食と水の安全に関する懸念については承知している。農薬等の環境物質については、現在国の基準を超えていないこともあり、更なる調査や改善に踏み切っていない事例があることも認識している。この問題は県単独で対応できることと、国レベルで見直すべき課題があり、県としては科学的根拠に基づき現行の数値内で対応している。

しかし、今後の農産物の輸出拡大や国際基準の動向を踏まえると、環境負荷の低減や基準の整合は避けて通れない課題である。何より県民の安全が第一だが、県独自で厳しい基準を設けることは技術的にも法制度的にも困難であり、原則として国の基準に則って対応していくこととなると考えている。

農家の負担軽減や安全性の観点から、国の動向を注視しつつ、現状において県としてできることをしっかりとやっていく。

○ 10代以下女性①

県内の高校で放置柿の研究をしている。熊対策として柿の伐採が進むが、栄養価も高く切り捨ててしまうのは非常にもったいない。私たちは柿の成分を生かして肉を柔らかくする焼肉のタレを開発・販売した。柿の有効活用は、食品ロス削減や未利用資源の価値創造、熊被害の根本的な削減にもつながる。伐採への補助金を出すだけでなく、柿を美味しく有効活用する取組を県全体に広め、持続可能な資源として活用を推奨する積極的な支援策をお願いしたい。

○ 知事

放置柿の有効活用について、高校生ならではの素晴らしい研究と実践報告に感謝する。私自身も伐採のみの対策には限界があると常々考えていた。伐採のみを解決策とするのではなく、皆さんのような有効成分を生かした商品開発や早期の収穫、実をつけさせない枝打ちなど、多様なアプローチがあって然るべきだ。伐採したい方への支援は継続しつつ、収穫や枝打ちなどを含めた多様な支援策もこれから検討していきたいと考えている。

○ 30代女性

シングルマザーで子ども2人を育てている。秋田は無料で遊べる屋内施設が少なく、休日の遊び場に困っている。空き家などを活用し、身近に無料で遊べる環境を拡充してほしい。また、シングルマザーの生活は経済的に非常に厳しく、フルタイムで働いても手取りが少なく、仕事を休めばさらに減収となる。児童扶養手当があっても就労収入により減額されるケースもあり生活維持に精一杯だ。生活基盤を安定させるための手厚い経済的・就労的支援の検討をお願いする。

○ 知事

子どもの遊び場について、他県に比べ「天候に左右されず無料で遊べる屋内施設が少なく」という声を多く聞いている。県としては秋田市一極集中ではなく、県内各地に施設を配置したいと考えている。全県的な調査をしたところ、大型遊具を備えた無料の屋内施設は地域差はあるものの一定程度整備されていることが分かった。今後は、その地域の隙間をどう埋めていくかを検討していく。

また、ひとり親家庭への生活支援については、国による児童手当拡充や高校無償化などの負担軽減が進められているが、県独自の直接的な給付支援を上乗せすることには財政的な限界がある。

そのため県としては、根本的な所得向上につながる道筋づくりに力を入れている。例えば、未経験からITスキルを習得するリスキリングへの支援を進めるとともに、秋田にいながら成長産業で安定した収入を得られる企業の誘致を行っている。

今は、技術や知識を身につけてステップアップすることが十分に可能な時代であるため、生活基盤の安定に向け、こうした、就労面で背中をしっかりと押す支援を進めていく。

○ 40代男性②

人口減少対策として県外からの移住促進も重要だが、まずは地元の若者が県内に定着し、農地や家業を継ぐことが不可欠である。親が子どもの自由を尊重しすぎるあまり県外流出を招いている側面もあり、行政からも家業を継ぐよう誘導するメッセージを積極的に発信してほしい。また、全国で競争が激しい移住・観光施策だけでなく、各市町村の海外姉妹都市協定をフル活用し、世界から定住に近い交流人口を呼び込む取組を県として支援してほしい。

○ 知事

移住促進について、明確にターゲットに定めているのは、配偶者のどちらかが秋田出身であるなど、県に縁のあるAターンの方々である。自然豊かな環境は他県にもあるため、地元に戻るメリットを強調し、まずは減りすぎている子どもの絶対数を下げ止まらせることが緊急の課題である。

家業の継承について行政が強く誘導することは、多様な選択肢を求める若者に対する「寛容性」を著しく損なう懸念があり難しい問題である。重要なのは「選んでもらう」姿勢であり、事業を魅力化していく必要がある。新規就農や地元に戻る若者への全般的な支援は引き続き行うが、地域産業の担い手確保と、自由に自分らしく生きられる秋田というメッセージ発信のバランスは慎重な配慮が必要だと考える。

また、姉妹都市を活用した海外からの交流人口拡大は素晴らしいアイデアであり、市町村と連携しながら県としてできることを検討していく。

○ 10代以下女性②

若い世代が心から「秋田は良い」と言える県になってほしい。仙台から県内の大学に進学し、幼少期の帰省時の良い印象から移住も考えていたが、実際に住んでみると、車を持たない一人暮らしの大学生にとってはどこへ行くにも不便で孤立感があるほか、自然が豊かとはいえ虫やクマの不安もある。若者が定着するために、秋田にどのような魅力が必要だとお考えか知事に伺いたい。

○ 知事

私自身の子育ての経験からも、中高生になり行動範囲が広がると親の送迎なしでは不便であると気づかされるなど、ライフステージによって地域の魅力は変わるものと痛感している。車を持たない20歳前後の若者にとって、現在の秋田が必ずしも魅力的であるとは思っていない。だからこそ、一度県外に出て就職や結婚などでライフステージが少し上がった世代を移住のターゲットに置いている側面もある。

若者が定着するための条件として、おしゃれな店舗やエンターテインメントを楽しめる環境、そして車がなくても自由に移動できる公共交通の整備が必要だと考えている。これらは一朝一夕には解決できない中長期的な課題であるが、街づくりの中心となる市町村としっかり連携し、若者の目線に合わせたワクワクする街づくりを進めていく。

○ 60代男性

秋田へスポーツ留学で進学してくる中高生も多い。こうした高校生のスポーツ留学の受け皿を活用して外から人材を呼び込むことは、将来的な関係人口を創出する意味でも非常に意義がある。将来リターンが返ってくるよう、受け皿となるスポーツ環境などにぜひ投資していただきたい。

○ 知事

受け入れ側の課題は「住むところ」である。地元経済界の協力で寮を整備している地域もあり、そうしたスポーツ環境の充実によって外からの人材を呼び込むことは、地域に多様性をもたらす良いことだと考えている。現在、スポーツ環境の整備のあり方検討委員会でもテーマとしており、今後も環境整備に取り組んでいく。

○ 20代男性①

人口減少は一様ではなく、旧町部の方が圧倒的に減っており、店舗の減少や災害対応、交通の不便さなど現状に限界や不安を感じている。人が減る中、この過疎地域に対し限られた予算をどう配分していくのか。地元に住み続ける高齢者への支援等も含め、県としての方針を聞きたい。

○ 知事

合併前の旧市町村単位で人口減少が限界まで進みつつある地域が多数あると承知しており、合併前の69の旧市町村を、可能な限り多くの単位で存続させたいと考えている。

そのためには、医療サービスの集約や教育機関の維持といった生活の核となる基盤を通勤圏に残すとともに、兼業であっても家や農地を守っていくことが重要である。中山間地域の農家に対する国の直接支払制度等の活用に加え、県としても、Aターンを希望する若者が親元や地元に戻りやすいような誘導策や支援モデルの構築を構想している。

中心部に子どもが集まりがちではあるが、旧市町村単位にどこまで踏みとどまってくるかはこれからの頑張り次第である。県としても、一緒になって頑張っていく。

○ 50代男性

高校卒業後に上京し様々な仕事を経験した。現在は、東京に住みながら県内で複数の事業を行い、行政の支援金等に頼らず自力で約50人の雇用を創出した。自力で秋田で事業をやりたいと思っている人は東京にもたくさんいる。また、新スタジアムについては、大手ライブハウス運営会社等と連携し、有名アーティストのライブも開催できるワクワクする施設にしてほしい。

○ 知事

行政の支援や補助金に一切頼らず、ご自身の力で県内に事業を展開し、貴重な雇用を創出いただいていることに感謝する。また、スタジアム構想についても、ライブやエンターテインメントが開催できるワクワクする施設というアイデアについて、今後色々と教えていただきたい。

○ 20代男性②

県出身の著名な漫画家が多く、「チェンソーマン」や「みかづきマーチ」などの作者もそうだが、そのことがあまり知られておらずもったいない。著名な作者が県出身であることをもっと知ってもらえれば、アニメ好きの子どもたちの将来の仕事の選択肢や幅も広がる。行政としてエンタメ産業やアニメの振興・PRが他県に比べ少し弱いと感じるため、もう少し力を入れていただきたい。

○ 知事

アニメなどのコンテンツ産業は、秋田に色々な強みがあるにもかかわらず、まだ十分に売り切れておらず発信不足であると私も痛感している。横手市には全国的にも珍しい「まんが美術館」があり、著名漫画家の出身地でもある。新しい映画の公開などで「聖地巡礼」が大きなコンテンツになる時代だ。アニメやエンタメ産業は、各地域が頑張ることはもちろん、県としても有力なコンテンツ・強みであると考えているため、さらに力を入れて振興とPRを頑張っていく。

6 感想（知事）

秋田県は課題が山積している一方で、皆様のご指摘のとおり、生かされておらず「もったいない資源や材料」が山ほど眠っている。現在、全庁を挙げて変革に取り組んでいるが、実感として「秋田は絶対に変わる、かなり良くなっていく」と確信している。

クマの出没など予期せぬ課題もあるが、重要なのは県民の皆様と力を合わせ、前向きなムードを一緒に盛り上げていくことである。これが私の中の大きなテーマでもある。県民と共に秋田の未来を創り上げていきたいと考えているので、県政運営に引き続きご協力くださるようお願いする。